



看護学教育研究共同利用拠点  
千葉大学大学院看護学研究科附属  
看護実践研究指導センター

2019年度

Center for Education and Research in Nursing Practice,  
Graduate School of Nursing, Chiba University

## センター長就任のご挨拶と看護学教育研究共同利用拠点事業のご紹介

千葉大学大学院看護学研究科附属 看護実践研究指導センター長 わすみ よしこ 和住 淑子



本年4月より、吉本照子前センター長の後任として、センター長に就任することになりました。

看護実践研究指導センターは、1982年4月、調査研究、専門的研修等を行うとともに、看護系大学の教員等、看護学分野の調査研究に従事する者の利用に供することを目的として、国立大学唯一の看護学部を有する千葉大学に設置されました。設置以来30年以上にわたり、全国の看護系大学への支援および看護実践者を対象とした生涯学習支援を通して、看護の向上に向けた事業を行ってきました。こうした実績をもとに、2010年3月、文部科学大臣より看護学分野唯一の「看護学教育研究共同利用拠点」として認定されました。

認定以降は、「看護学教育研究共同利用拠点」として、全国の看護系大学の教員、臨地実習を担当する国公立大学病院等の医療施設の看護職を対象として、教育に関する研修事業(FD)、看護管理や医療専門職の実践に関する研修事業(SD)、看護学共同研究事業を実施しています。さらに、文部科学省からの補助を受け、「教育—研究—実践をつ

なく組織変革型看護職育成支援プログラムの開発」プロジェクト(2010-2014年度)、「看護学教育におけるFDマザーマップの開発と大学間共同活用の促進」プロジェクト(2011-2015年度)、「看護学教育の継続的質改善(CQI:Continuous Quality Improvement)モデルの開発と活用推進」プロジェクト(2016-2019年度)といった、各種大型プロジェクトに取り組んでいます。

「看護学教育研究共同利用拠点」は、5年ごとに認定が更新されることになっており、今年度は、再々認定に向けた審査の年でした。就任直後より、当センターのこれまでの事業の成果を評価するとともに、変化する社会とそこで期待される看護職の役割、そのような看護職育成に必要な看護学教育のあり方を展望し、新たな事業計画を策定し申請を行いましたところ、無事、再々認定を受けることができました。

今後の活動に向けて特に強化していく点は、当センターの利用者相互のピア・コンサルテーションの促進です。教育・研究・実践の良循環を通して、山積する社会的課題の解決に看護学の立場から貢献し、国民の健康の増進に資するものとなるよう、今後も活動を続けていきますので、皆様のご活用をよろしくお願いいたします。

本センターでは、拠点としての機能強化を図り、看護学教育に関する国内外の動向を共有し、各大学の教育の質改善のため、ホームページでの情報発信はもちろんのこと、個別指導や情報交換できるよう、下記のようなコンテンツ等を配信しております。

- ・FDマザーマップ・支援データベース  
(看護系大学のFDを支援するFDプランニング支援データベース)
- ・組織変革型看護学職育成支援データベース  
(教育—研究—実践をつなぐデータベース)

また、メーリングリストを改め「拠点インフォメーションメール」とし、看護系大学等との連携・協働のための情報発信力向上に努めております。受け付けは随時行っておりますので、担当窓口部署、窓口担当者名を記入の上、件名を「(〇〇大学)拠点インフォメーションメール登録申し込み」とし、[kango-cqi@chiba-u.jp](mailto:kango-cqi@chiba-u.jp)までお申し込みください。



<https://www.n.chiba-u.jp/center/>

## 「CQI モデル開発と活用促進事業」ご報告

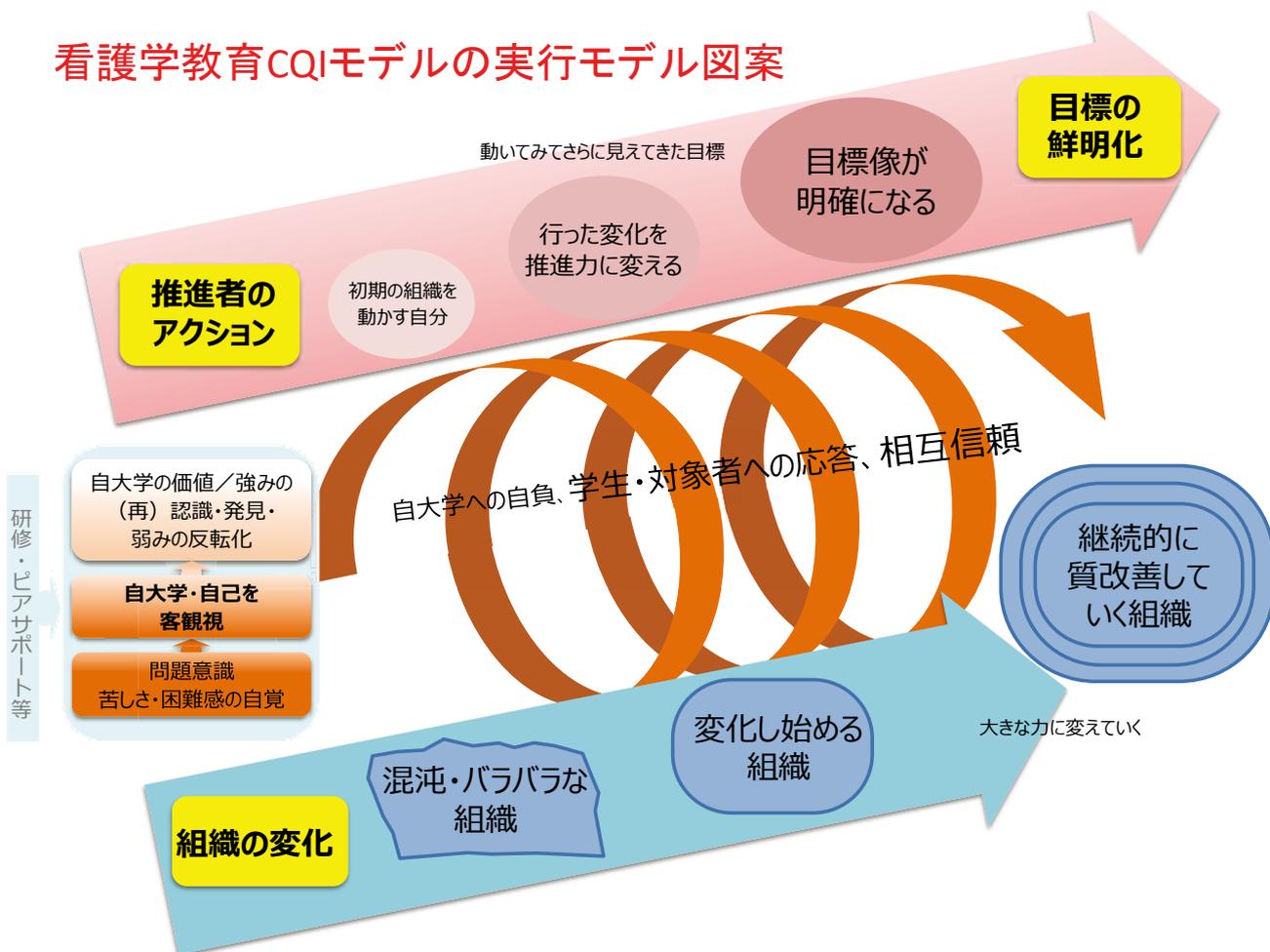
当センターでは、2016年度から、看護学教育の継続的質改善(Continuous Quality Improvement:CQI)モデルを開発し、全国の看護系大学の自律的・持続的機能強化を支援する事業に取り組んでいます。

これまで、モデルVer.1として、2つの図とワークシートを開発し、ワークショップで活用してもらうことを通して、必要性和意義を確認してきました。そして、本年度は個別事例研究を通して、実行モデル図を加えたCQIモデルver.2を開発しました。実行モデル図は、【推進者のアクション】、【組織の変化】、【目標の鮮明化】と、CQIのプロセスを通して自大学への自負、学生・対象者への応答、相互信頼が大きくなることを表した図となりました。現在、モデルを活用していくためのワークシートをバージョンアップ中です。

そして、最終年度の今年は、CQI推進支援の一環である「ネットワーク型CQI相互支援体制」として、SIG(Special Interest Group)メーリングリストを開設することと致しました。

当該のテーマに関して、各大学が困っていることや悩んでいること、あるいは、先行して実践している自大学の取り組み内容や工夫、知恵などについて、自由に、情報や意見を交換することによって、各大学のCQI推進を、相互に支援し合うネットワークとなることを意図しています。＜臨地実習の改革に関するCQI＞、＜新カリキュラム構築に関するCQI＞などの7つのSIGテーマを設定して、開始する予定です。多くの方に参加していただき、ネットワークが広がることを期待しています。

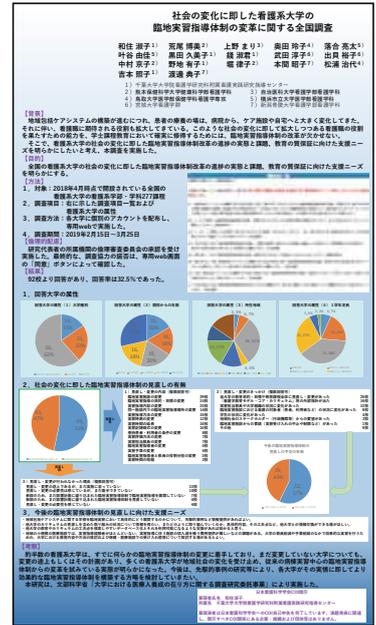
### 看護学教育CQIモデルの実行モデル図案



# 大学における医療人養成の在り方に関する調査研究 — 学士課程における看護学教育の質保証に関する調査・研究 —

当センターでは、昨年度より、文部科学省調査研究委託事業「大学における医療人養成の在り方に関する調査研究—学士課程における看護学教育の質保証に関する調査・研究—」(2018～2020年度)を受託し、研究を実施しています。

この研究プロジェクトは、看護系大学が、地域包括ケアシステム構築等社会の変化に即して、臨地実習指導体制をはじめとする学士課程カリキュラムを改革し、その改革に基づいて教育を展開し評価する体制を、自大学の内部に構築する方略を解明し、普及することを目的とし、当センターが、宮城大学・新潟青陵大学・横浜国立大学・鳥取大学・熊本保健科学大学と共同で実施しています。今年度は、全国の看護系大学にご協力いただき、昨年度末に専用webにて実施した「社会の変化に即した看護系大学の臨地実習指導体制の変革に関する全国調査」の結果を、第39回日本看護科学学会学術集会にて発表しました。また、全国の21の看護系大学にご協力いただき実施したインタビュー調査の結果は、現在、取りまとめている最中です。次年度には、成果をご報告できる見込みです。



## 看護学教育ワークショップ



看護学教育の継続的質改善(CQI)のモデル開発の一環として、昨年度に引き続き、看護学教育ワークショップでは、CQIをテーマとして取り上げました。本年度は、参加者が自大学でCQIを推進することに向けて、CQIの推進者の実践に学び、必要な能力を把握するとともに大学間の相互支援のネットワークを広げることを目的として、

一つ選ぶ公開座談会に参加しました。グループワークでは、領域や職位に関係なく、利害関係のない看護系大学教員同士が相互支援することによって、自大学を俯瞰し、CQIに向かう思考の方向性を丁寧にたどることによって、CQIとしてやるべきことが見えてくることが実感されました。一方、公開座談会は、CQIで取り組みたい事項に焦点をあてて、参加者同士が具体的な活動やアイデアの意見交換をするために実施しました。学生の学びの評価、ポリシーの共有、地域包括ケアシステムを背景とした実習の構築、若手・中堅教員からのアイデア発信などがテーマの座談会では、質疑応答や、実践のアイデア、活動報告が活発にあり、まさに大学間の相互支援のネットワークが目に見えるようでした。

2019年10月28日、29日に開催しました。60大学から77名の方が参加されました。

文部科学省高等教育局大学振興課専門職・高久奈津子氏からの挨拶に引続き、28日の午前中、3つの報告と講演が開催されました。当センターからは『CQIモデル開発とその成果』を、鳥取大学の深田美香教授からは『CQI実践事例』が報告され、大学基準協会事務局長の工藤潤氏による『大学教育における内部質保証の動向』の講演が行われました。

46名の全日程参加者は、その後、少人数グループに分かれたグループワークと、4つのテーマから



## 国公立大学病院副看護部長研修



国公立大学病院副看護部長研修は、日本の医療の現状を踏まえ、大学病院の上級看護管理者として自施設の組織変革に向けたビジョンを明確にし、その実現に向けた計画を立案・実施・評価することを通して、上級看護管理

者として必要な実践的能力を高め、大学病院の看護の充実を図ることを目的とし、平成18年度から毎年実施しています。国公立大学病院の看護管理の機能強化に向けたStaff Development (SD)として位置づけられます。令和元年度は、20名の国公立副看護部長を迎え、1年間を通して自施設で取り組む各自の実践計画に沿った組織変革プロジェクトを推進しました。3期に分けた分散型集合研修Ⅰ～Ⅲにより構成され、受講生は千葉大学の当センターに年間3回来校し受講生との交流も深める機会となりました。研修Ⅰは大学病院の高度実践看護管理者として必要となる最新の学際的知識を学び、研修Ⅱは課題解決に向けた演習およびプレゼンテーションスキルの演習などから小グループのダイナミクスを活かした学習、研修Ⅲは実践報告会を実施しました。年間を通して、センター教員からの継続した指導、受講生相互の他施設訪問等から、実践力が高められるようシステム化されています。大学病院における看護管理の今日的課題と実践知がまとめられた実践報告書は、研修生の同意を得て当センターのデータベースと図書館リポジトリへ登録されますのでご利用ください。

## 看護管理者研修

近年の医療制度改革において、急性期病院は、限られた在院日数で効果的に医療を提供し、速やかに地域での生活に戻れるよう支援する役割が求められています。看護管理者研修は、看護師長等、現場の看護に責任を持つ職位にある、国公立病院をはじめとする急性期病院の看護管理者が、医療提供体制の変化に対応した複雑かつ重要な課題を組織的に解決する能力を開発することを通して、看護本来の役割発揮を支援することを目指して、毎年開催しています。

今年度は、全国から91名の看護師長相当の看護管理者が集まり、2019年9月25日(水)～9月27日(金)の3日間、千葉大学看護学部を会場に開催しました。文部科学省医学教育課から大学病院支援室高橋専門官、厚生労働省看護課から奥田課長補佐、東京医療保健大学副学長の坂本氏、退院支援の専門家宇都宮氏など総勢9名の多彩な講師陣で構成された講義では、少子高齢社会における人々の健康と生活の充実のために、いかに現場の看護管理者の役割発揮が重要であるかを再認識できました。また、今年度は、昨年度に引き続き、各講義の前後に学びの共有と確認の時間を設け、参加者同士の交流の時間を持ちました。全国の看護管理者間の良いネットワークの形成ができたと思います。



## 看護学教育指導者研修



現在、毎年約10校のペースで大学の新設が続いており、次世代の看護職を育成する上で、地域の様々な保健医療施設と看護系大学の連携の重要性が高まっています。看護学教育指導者研修は、看護学生の看護実践を直

接指導する臨地実習施設所属の看護職が、社会の変化に即した看護学教育を行う上で必要な視点を養い、臨地実習施設と看護系大学の更なる連携・協働により、社会が求める次世代看護職の育成に資することを目的として、毎年開催しています。

今年度は、全国から45名の看護系大学の臨地実習施設所属の看護職の皆様を研修生として迎え、2019年8月21日(水)～8月23日(金)の3日間、千葉大学看護学部を会場に開催しました。講義では、看護高等教育行政の動向、看護学教育の基礎、臨地実習指導の基礎、看護における成人教育のあり方を学び、2日目からはグループワークを行い、上手いかなった教育指導実践の事例をいかに教育のチャンスとして教材にしていけるかをグループで検討、その検討結果を使ってロールプレイング学習を深めました。今年度も、昨年度に引き続き、臨地実習施設と看護系大学の更なる連携・協働に向け、看護系大学FD企画者研修の参加者にもグループワークにご参加いただいています。

## 看護系大学FD企画者研修

本研修は、2017年度から新規に開催している看護系大学教員を対象とした研修で、今年度が3回目の開催となります。目的は、組織分析を通して自大学の課題を特定し、看護および看護学の特質を踏まえ、自大学の実情に見合った体系的なFD (Faculty Development) を企画・実施・評価できるFD企画者 (FDer) としての能力を身につけることです。2名5組の募集としたところ、今年度も多数の大学から応募があり、これまで複数回ご応募くださった大学を中心に5大学10名を選考させていただきました。研修Ⅰは、FDマザーマップ等の看護学教育の体系的FDに資する情報提供の後、当センターが開発したCQIモデルVer.1とワークシートを用いて、各大学の組織分析を行い、FD課題を明確にしました。その後、FD企画に向けた討議を行い、自大学の現状を踏まえたFD企画立案を課題としました。研修Ⅱは、看護学教育実習指導者研修へのファシリテータ参加形式の演習とし、前後に立案中のFD企画について実施方略を含めた情報交換を行いました。今後予定されている研修Ⅲでは、各大学の立案したFD企画の実施、評価の経過報告を行い、FDerとしての能力開発へのフィードバックを行うこととしています。



看護学教育研究共同利用拠点

発行

千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター

〒260-8672 千葉県千葉市中央区亥鼻 1-8-1 U R L : <https://www.n.chiba-u.jp/center/>  
TEL : 043-226-2464・2377(総務第二係(センター研修担当)) E-mail : [nursing-practice@office.chiba-u.jp](mailto:nursing-practice@office.chiba-u.jp)

撮影協力/千葉大学写真部